

平成 29 年度性教育検討委員会概要

日時 平成 30 年 2 月 1 日 (木) 午後 1 時 30 分～2 時 15 分

場所 おだわら総合医療福祉会館 4 階 第 1 会議室

出席者

性教育検討委員：学校医 3 名、市立病院産婦人科主任部長、市立病院産科看護師長
中学校長 1 名、中学校養護教諭 1 名、教育指導課指導主事 1 名 計 8 名
事務局（学校安全課長、副課長、保健係員 2 名）計 4 名

会議概要

1 開会

2 あいさつ

性教育検討委員に対し、学校安全課長より、日頃の学校保健事業の尽力への謝辞と、次のおりあいさつをした。

近年、性感染症である梅毒の増加が話題になっている。かつて、日本で多くの患者がいた梅毒だが、一時その患者数は減少していた。しかし、近年は増加傾向にあり、2016 年の患者数は 4,559 人と 2010 年の患者数の 7 倍以上となった。また、HIV についても若年層を中心に流行しており、先進諸国の中で AIDS が増加しているのは、日本だけであるといわれている。性教育講演会では、専門の先生を講師として招き、子どもたちに性に関する正しい知識、生命の大切さや自分自身を大切にすることを伝えている。生徒たちの感想文を読むと、この講演会で新しい知識を得ることができており、また、講演会での内容を受けて自分自身で考えるきっかけとなっていることがうかがわれる。本日は、限られた時間ではあるが、委員の皆様にはそれぞれの立場から活発な意見をいただき、この「性教育講演会」が今後もより効果的な事業となるよう、講演内容等の検討をお願いしたい。

3 委員長選出

要項第 4 条 2 項により、学校医部会長 遠藤委員が委員長に選出された。

4 議題

(1) 平成 29 年度の性教育講演会について

委員長：議題 (1) 平成 29 年度の性教育講演会について、事務局に報告をお願いする。

報告を聞いて、今年度の性教育講演会の評価し、生徒の感想や、アンケートを見て、目的を果たしているかどうか審議する。

事務局 (説明)：

急速に進む情報化社会の中で、不確かな性情報の氾濫、また、性に対する関心や性衝動の発見が早期化の傾向にある。そのため、性についての正しい知識の普及を図ることを目的とし、中学校の生徒や保護者を対象に性教育講演会を開催した。講演会の実施方法としては、昨年度の検討委員会で推薦された講師の中から、中学校からの希望をもとに教育委員会で講師に依頼後、各中学校で講師と打ち合わせをし、講演会を実施した。また、新規の講師には、性教育指導の手引きを配布し、本

事業を実施する目的を良く伝えた上で講演会を依頼している。

講演会の開催は、平成 29 年 6 月 14 日から平成 30 年 3 月 2 日までの間に、市内の全中学校で開催を計画し、昨年末時点で 7 校が講演会を終えており、残り 4 校は 2 月及び 3 月に開催予定である。

それぞれの学校において、命の大切さ、男女の心と体の違い、男女だけではない性、思春期の心と体、妊娠と出産、性感染症やエイズ、医療現場での体験談など学校の希望にそって、講師の先生方にお話いただいた。生徒たちの感想をみると、どの講師も中学校の希望に応じて生徒に語りかけてくださり、生徒たちがそれを真剣に受け止めたことがうかがわれる。

委員長 : それでは、平成 29 年度の性教育講演会の評価をしたい。生徒の感想やアンケートを見て、目的を果たしているかどうかなど、意見をいただきたい。

事務局 : 昨年度までは、生徒の感想の抜粋を配布していたが、昨年度の検討委員会で生徒全員の感想の読みたいと意見があったため、今年は全ての感想を事前に送付させていただいた。

委員 : 生徒の感想を読んでいると、講演会の内容にばらつきがあるように感じた。市立病院の堀田有紗先生は 3 回講演会を行っているが、学校ごとに内容が異なっている。同じ講師の講演会でも、学校により内容が異なっているのか。

委員 : 堀田有紗先生は、同じパワーポイントを使用して講演会を行っている。今年度、城北中学校からスマートフォンを利用して起こる性被害の恐ろしさについて触れて欲しいとの依頼があったが、医療現場では具体的な事例がなかったため、養護教諭と講師で調整して、講演会では具体的な事例には触れなかったと聞いている。

事務局 : 学校では、スマートフォンについて講演会で触れて欲しいという希望は多いのか。

委員 : 学校では、スマートフォンについては道德の分野で取り扱うことが多く、外部講師を招いて、講演会を行っている。

本校も堀田有紗先生に講演をしていただいたが、事前に調整した際の学校側の希望も取り入れた内容で講演会を行っていただき、生徒たちにとってとてもわかりやすい内容であった。

事務局 : 昨年度、平吹委員から困った時は大人に相談することを伝えたいという意見をいただいたが、今年度の泉中学校の生徒の感想を読むとそのことが生徒たちに伝わっていると感じる。

生徒の感想を読むと、全体的にまだ幼いという印象を受けるが、その一方で、都会に出て援助交際をしている生徒もいるという現実もあり、この事業でどの子どもたちに焦点を当てて講演会を行うかが難しいと感じている。本市の性教育講演会は、産婦人科医から子どもたちに性感染症の恐ろしさを伝えたいという思いを受けて、始まったものである。

委員 : 学校の保健体育の授業では、性教育は 3 年生で扱う内容になっている。市の性教育講演会の対象学年は、学校ごとに異なっている。まだ性教育の内容を学んでいない 2 年生は、小学校高学年の時に学んだ知識程度しかない中で講演会を聞くことになるため、各校で感想に差がでてしまうことは仕方のないことではないかと思う。養護教諭は、各学年の学習内容も踏まえ、講演会の依頼をしなければなら

いと思う。

委員 : 保健体育の授業では、性感染症は2年生では学ばないのか。

委員 : 2年生の学習内容に妊娠・出産はあるが、エイズや性感染症は3年生の学習内容となっている。

委員 : 性感染症について早めに学校で学習してもらわないと、講演会を行っても生徒たちが内容を理解できないままで終わってしまう。

委員 : 学校では、子どもたちの実態を踏まえ、他の教科の学習内容との関係も考えた上で、今の時期の子どもたちにとってどのような内容を伝えることが良いのかを考えて講演会の内容を依頼しなければならないと思う。さもなければ、せっかく講演会を開催しても子どもたちに内容が伝わらないことになってしまう。

本校では、2年生で性教育講演会を行っているが、まだ幼いため、講演会の内容は子どもたちにとってもインパクトがある。感想を読むと、ちゃんと考えなきゃいけないことであることは理解していたので、今後、保健体育の授業や家庭生活などにつなげていかなければならないと思う。

事務局 : 橘中学校は、昨年度から対象学年を3年生から2年生に変えている。

委員 : 対象学年の変更の理由には、養護教諭の想いや他の授業との関連性もある。この講演会で命の大切さのことで知って、家庭科での保育の授業につなげているが、講演会で知識を得た後なので、円滑に理解できている。

委員 : 私は小学校の教諭であったが、小学校6年生の授業の第二次性徴の分野で妊娠出産についての授業を行った。小学生であると、体格や心の成長度合いなどに差があるため、小学校では簡単に内容に触れ、中学生では、小学校で習ったことのより具体的な内容を教える形になる。

講演会の内容と学校での他の授業の内容に関連性がないと効果が得られないので、子どもたちの実態を踏まえた上で、どの時期にどのような内容を行うかを定めることが大切だと思う。

委員 : 全国でお産の数は減っているのに、10代のお産はあまり減っていない。15歳以下のお産に関しては全く減っていない。

委員 : 親が子どもの妊娠に気がつかないことはおかしいと普通は思うが、実際にはいる。

事務局 : 妊娠しているのにも関わらず、出産の前日まで学校の体育の授業を受けていたという話を聞いたことがある。

委員 : 高校生の場合、女の子は退学させられるのに、男の子はそのまま学校に通うことができる。その現実を知った方がいい。男の子だけ何も罪がないかのように平然と学校に通い続けることができる。そのような事態にならないためにも、子供たちに自分の体を守る大切さを伝える必要がある。だから、講演会では、自分たちでは何も出来ないのだから周りの大人に相談しなさいと伝えるようにしている。

話は変わるが、横浜での性教育の会議に出た際に、他市町村では小田原市のような性教育の取り組みを行っているところは少ないことがわかった。

事務局 : 本市独自の事業である。小田原の産婦人科医の先生方が性感染症の恐ろしさを知らせたい、望まない妊娠を防ぎたいという思いからこの事業が始まった。

委員 : 最近では、横須賀市が性教育に力を入れて行っている。しかし、希望のある学校に

のみ講師の派遣を行っているだけなので、本市のように全中学校では行っていない。

委員：高校生の方が、性教育の内容が本人たちにとって現実的な内容となる。

委員：高校は市の管轄ではないのか。

事務局：市の管轄ではないが、中学校の性教育講演会で知識を教えているにも関わらず、高校生が望まない妊娠をしてしまうことは残念なことだと思う。

委員：高校だと講演会の内容がその学校の校風により大きく変わるため、中学校の方が画一的な講演ができると感じている。

事務局：昨年度の検討委員会で意見の出た目的は今年度達成できたと考えている。

委員長：様々な意見が出たが、性教育講演会の目的は果たされているという評価でよろしいか。

委員一同：諾

委員長：議題(1)平成29年度の性教育講演会については、目的を果たしているという評価し、終了する。

(2) 平成30年度の性教育講演会講師の推薦および今後の方向性について

委員長：次に、議題(2)平成30年度の性教育講演会講師の推薦および今後の方向性について、審議をするが、まず事務局から説明をお願いする。

事務局(説明)：

教育委員会としては、事業目的を達成するために、今後も医師等の専門職の方に講師をお願いして、性教育講演会をすすめてまいりたい。

来年度の登録は、今年度同様11人の講師にお願いしたい。市立病院の助産師の講師は、今年度は、堀田有紗先生と川崎涼子先生であったが、堀田有紗先生が産休に入られるため、平成30年度は、庄司奈美先生と滝本美和先生が講師となる。また、安藤晴敏先生から平成30年4月から所属先が変わる可能性があるという伺っているが、講師としては来年度も登録する方向である。

委員長：それでは、審議に入る。まず、目的と方法について意見等はないか。

委員一同：特になし

委員長：では、目的と方法については、来年度も従来通りとする。講師について意見はあるか。

事務局：昨年度の検討委員会での教員の講演会の感想を載せた方が養護教諭が講師を選びやすいのではないかという意見を受け、今年度の講師の一覧表に教員の感想を記載した。

委員長：学校と講師のやり取り等に問題がなく、学校の希望する内容が反映された講演会となっていれば良いと思う。新規の講師の推薦はなかったのか。

委員：養護教諭部会で検討したが、新規の講師の推薦はなく、今年度登録されている講師にお願いしたい。

委員長：それでは、これで(2)平成30年度の性教育講演会講師の推薦および今後の方向性について、審議を終了する。

(3) その他

委員長 : 議題 (3) その他について、何か意見はあるか。

委員長 : 意見も尽きたようなので、それでは、(3) その他について終了する。

以上